

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—まわり道のように見えても—

NO. 2



傘を新調しました。普段はクルマでの移動が多いので、正直あまり使わないのですが、新しい傘になっただけで、子どもの頃と変わらないウキウキ気分。雨の日のお出かけは、荷物も増えるし、出たり入ったりもスムーズにいかないし、クルマは混んでいるし、洗濯物は乾かないし、水たまりで遊ばれちゃうし、汗だく…。傘を内側から見上げる、ほんの一瞬だけでも楽しみましょうか。

さて、話は替わりますが、“伸びしろいっぱいになってほしい”という願いは、どの子にも抱く期待ですね。でも、その場で全力を出し切るって、なかなかむずかしいものです。みなさん最近、リミットまで力を出し切ったことってありますか？。とんでもない！そんなことをしたら、明日に響いちゃう（いやいや数日）かもしれませんが、やってみたら、きっと気持ちいいでしょうね。

子ども達の姿を見ていると、『合わせる』『一緒に』『並んで』『この範囲で』と強られる場面がとて多く、『思いきり』何かをしたことがとても少ないんじゃないか、もしかしたら一度もないのでは、と感じることがあります。例えば、“動きが多い”とか“落ち着きがない”と言われる子が、駆けっこでは全力が出せない。力の加減がちょっとむずかしく“乱暴”そうに見える子が、重い物を「よいしょ」と持てない。持ちづづけていられない。綱を引っ張る、ビンの蓋を開けるなど“ここでグッとパワーを出す”ということが上手いできない姿、ちょっと不思議ですね。

“ちょうどいい感じ”で力を出すことがむずかしい子には、まずは、自分の“ゼロ”と“マックス”を体感してもらうことが大切です。自分の身の丈がわからないと、「このくらい」と見当を付けることがピンときません。「もう少し」「もうちょっと」「もっともっと」の意味を、身体でイメージしていくためのベースです。言われてみれば当たり前のことですが、日常の生活の中で、“全力！”が許される場面は決して多くはありません。あんずでたくさん経験してほしいと思います。

子ども達は、身体でいろいろなことを表現します。それは“ことば”よりも先だし“ことば”よりも幅が広い。身体の動きにぎこちなさや硬さがあると、人との関わりの幅や興味関心の幅も狭くなってしまいます。身体を操る力が豊かになっていくと、それはそのまま、関わりの広がりや遊びの広がりにつながっていきます。時として、むやみに動きを制することが、伝えたい子どもの口を塞いでしまうことになっているかもしれません。そうは言っても…ですが、気を付けたいですね。逆に、ことばは交わさずとも、一緒に動くことで遊ぶことで触れあうことで、豊かなコミュニケーションをとることもできます。

まずは“自分の身の丈”を知り、思い切り自分を表現すること、そこで身近な人と楽しむことを経験してほしい。それと同時に、少しずつ相手を意識して“加減すること”や“調整すること”を学び知ってほしいと思います。

小さくまとまるな！みんなこれからだぞ！『合わせる』『加減する』ことが『一緒って楽しい』って感じられるように、まずは思い切り向かい合って遊ぼう。苦手なことは手伝うからね。やりきって笑顔で目が合ったあの瞬間は、たまらないよね。また明日！（H28. 7）K

